

これからもつと

富裕層

になるための
ファンド選び

第6回

金融危機時の資産形成法

― 鉱山投資、これからの可能性 ―



Photograph by Yoshinobu Ogawa

上中康司氏(うえなか こうじ)

1962年生まれ。88年、神戸大学大学院工学研究科修了後、日本債券信用銀行入行。その後、シティバンク、クレディスイスファーストボストン証券、住友キャピタル証券、日本インベスターズ証券を経て、2000年、エルエードットコム株式会社設立。02年、社名をエフエーストック株式会社に変更

今回の金融危機を大きなチャンスと捉え、

鉱山会社への投資に動き出した投資アドバイザーの上中氏。

前号の上中氏の記事に、読者からの問い合わせが多数寄せられた。

氏が進めている鉱山投資の将来性と、資産形成の道筋について

より詳しくお伝えする。

前

回から紹介しているように、現在の世界的金融危機は、一気に資産を築くための数十年に一度の大チャンスです。このような時こそ、実物価値がきつちりと分かるものに集中投資するのです。

私自身は、オーストラリアの鉱山会社、キンバリーメタル社へ今年の3月末までに、発行株数の25%を出資する契約を交わしました。3月末には筆頭株主として公のデータに登録されます。つまり、オーナーになります。

今回の投資は、私のオーストラリア法人のJINJI RESOURCES社の自己資金でほとんど出資していますが、一部、どうしてもこの投資に乗りたくて希望された個人の投資家の方のお金も入っています。

また、私は、キンバリー社の役員に就任する予定です。つまり、経営にも積極的に参加していくつもりです。まずは、最初に産出する銅鉱石の日本でのマーケティングをしなければなりません。名実ともに、鉱山会社の経営者になるわけです。

資産形成のための投資形態も、マーケット至上主義の投資から、実業に近い形への投資に変わっていくものと思います。レバレッジの効いた投機マネーが実体経済の



キンバリー社のアダム・マッキノン博士(右)と鉱山を視察する筆者

何倍もの金額となつて、マネーマーケットを支配したため、マネーマーケットを歪めてしまい、バブルを形成してしまいました。そして、最後には、バブルがはじけて大きく信用収縮を起こし、マネーマーケットは、機能不全に陥ってしまいました。マーケット至上主義のアメリカが金融機関救済のために公的資金を兆円も使うことを決めた時点で、時代の流れは変わりました。「小さな政府、市場原理主義」から、「大きな政府、修正資本主義」へとパラダイムシフトが起きたのです。

このような、世界経済の大きな変化にいち早く気付き、それに合った投資スタイルに切り替えてい

くことが、資産形成にとって、大変重要なことです。

キンバリーメタルの鉱山は、主に、銅、鉛などのベースメタルを産出します。私は、近い将来、銅鉛の価格は現在の低迷から回復すると考えていますので、投資しました。

なぜなら、現在のように、世界的な不況になつても、中国、インド、東南アジア、中東などの発展地域では、インフラ投資が盛んだからです。不景気など関係なく、都市の近代化が進んでいきます。つまり、ビル、港湾、鉄道、空港、道路を作るための、鉄、銅、鉛、亜鉛、などの金属が必要であり続けるのです。中国は、景気対策で50兆円の予算を計上しました。つまり、今以上の金属資源の需要が発生してくるわけです。

しかしながら、私は、これで満足したわけではありません。私は、JINJI RESOURCES社を総合資源会社にしたいと考えています。次に大きく投資する会社はウラニウム鉱山の会社を考えています。今後は、石油に代わるエネルギー源として、ウラニウムが見直されてきます。つまり、発電所は火力から原子力へ転換していきます。米国、中国、ヨーロッパ、アジア各国でも、原子力発電

所の建設が盛んになってきます。そこで用いられるウラニウムの需要は、今後ますます増えてくると見て間違いありません。オーストラリアでは、ウラニウムの大半は西豪州に埋蔵されています。

昨年の秋にようやく、西豪州でウラニウムの商業生産が解禁されました。本格的に生産されてくるのは、2011年ぐらいからでしょうが、現在の、安い株価水準は投資タイミングとしては魅力的です。

また、レアメタルの鉱山会社にも大きく投資したいと考えています。レアメタルとは、鉄鋼製品の性能アップに欠かせないタングステン、モリブデン、バナジウムなどや、携帯電話、パソコンに欠かせないレアアースなどです。現在、中国がレアメタルの多くを商業生産していますが、中国が自国の産業育成のために輸出を制限して来っており、需給が逼迫して来るのは明らかです。現在、オーストラリアで商業生産までしている会社はごく一部ですが、試掘段階のジュニアマイニングなら何社かあります。

上記の話は、すでに上場している会社に大きく出資して、JINJI RESOURCES社の傘下に収めて、経営しようという話ですが、さらに、これらの鉱物資

源を埋蔵したポテンシャルの高い土地を買収することも合わせて考えています。最近では、急速に経営が悪化した会社が手持ちの本業ではない鉱山の土地を手放すケースが増えているので、買う側からすると有利な値段で買えるのです。

これらのベースメタル、ウラニウム、レアメタルの会社の株式と、鉱物資源のある土地を今年、2009年中に買いたいと思っています。何度も言うようですが、現在のコモディティ価格と株価は、数カ月前の高値の30%から40%という水準で、投資通貨のオーストラリアドルも、1ドル58円(2009年1月26日現在)です。このタイミングは、まさに、数十年に一度の投資チャンスと言えるでしょう。いまこそ、一極集中投資して、一気に資産を増やすチャンスなのです。

JINJI RESOURCES社は、2009年中に買うべきアセットを買い、近い将来、タイミングを見て、株式上場をめざしています。現在、それに向けて、社内体制も整えつつあります。私は、有望な会社と土地のアセットを保有して資産価値が増えるのを待つだけでなく、自らの会社を上場させることで、より大きく、資産を増やしたいと考えています。

上中さんのセミナーが開催されます

お知らせ

「金融危機時の資産形成セミナー」 ■日時：3月11日(水) 19:00~21:00
■場所：東京八重洲ホール

参加ご希望の方はコンシェルジュにお申し込みください。



この記事に関するお問い合わせは

SEVEN HILLS コンシェルジュ ☎ 0120-077-917
受付/月~金曜日10:00~18:00(祝日を除きます)
E-mail:ccginfo@7hills.ne.jp